

若林 顕

平均律ピアノ曲集 第1巻 全曲演奏会

魔弾のピアニストVol.Ⅱ
J.S.バッハの
宇宙に触れる



J.S.バッハ：
平均律ピアノ曲集 第1巻
BWV846～869

©hoshino

AKIRA
WAKABAYASHI

東京芸術劇場コンサートホール

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1
JR、東京メトロ、東武鉄道、西武鉄道「池袋駅」西口徒歩2分。
(池袋駅地下2b出口直結)

2024. 全席指定(税込): S席 5,500円 A席 4,500円 B席 3,500円 チケット発売日: 2024年5月11日(土) 10:00～

9.6

(金) 19:00開演
(18:30開場)

プレイガイド: 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 (休館日を除く10:00～19:00)

<https://www.geigeki.jp/ti/>

チケットぴあ t.pia.jp ローソンチケット l-tike.com イープラス eplus.jp

お問合せ: サンライズプロモーション東京 0570-00-3337 (平日12:00～15:00) ※チケットの取扱はございません

主催: MIYAZAWA & Co. 協力: ヤマハ株式会社 協賛: 株式会社パワーズアンリミテッド



【18歳以下無料招待・同伴者半額】本公演は、『文化庁子供文化芸術活動支援事業』です。

18歳以下の方を対象に、無料でご招待します。 受付期間: 6/7(金)12:00～

※受付は先着順となりますので、定員に達し次第受付終了となります。※本応募は文化庁の採択を以て告知を開始しております。
お申込以前にご購入いただいた場合も払い戻しはできません。ご了承ください。

詳細・申込は
こちら➡



あえて大ホール、モダンのグランドピアノで挑む 若林颯の「平均律」第1巻

若林颯は20歳の時、「ピアニストは40歳から」と思っていたという。さらに20年近く過ぎて還暦(60歳)を翌年に控えた2024年9月、いよいよ鍵盤音楽の「旧約聖書」とされるヨハン・ゼバスティアン・バッハ(1685-1750)の傑作、「平均律クラヴィア曲集(24の前奏曲とフーガ)」第1巻全曲に挑む。

バッハが実際に演奏した鍵盤楽器はチェンバロやクラヴィコード、あるいはオルガンであり、モダン(現代)楽器のグランドピアノとは音を出す構造が異なる。1980年代以降、チェンバロなどのピリオド(作曲当時の)楽器とモダン楽器の関係は対立から融合に転じ、ピアノでもアーティキュレーションやフレージングを吟味すれば、素晴らしいバッハが演奏できることを今や誰も疑わなくなった。

若林は大ホールを揺るがす輝かしい音響をグランドピアノから楽々と引き出す力量の持ち主だが、長年の経験に裏打ちされた様式の押さえにも抜かりはない。精妙なコントロールが可能な楽器の機能をフルに生かし、21世紀の新たなバッハ像を打ち出すことに大きな期待が募る。

池田卓夫 音楽ジャーナリスト@いけたく本舗*

「バッハの音楽を聴くと、何故かいつも気持ちが安らぎ、静かな心になります。そして大宇宙のなかの「自分」という小さな存在を、改めて客観的に思い知らされるような気持ちになります。

多声部に入り組んだポリフォニックな世界、それぞれの声部はお互いに自由に生き生きと対話し、協調し、いつしか大調和の中に無限大に広がっていきます。

世界中で、争いと悲劇が渦巻いている今の時代だからこそ、一人の音楽家としてバッハに真剣に取り組む事は非常に重要だと考えています。

ハーモニーや音色、音程感をコントロールする事が可能な現代のピアノで、あえて大ホールという大きな空間の中で、心に届くバッハの世界に挑みたい、そして「ミクロ」と「マクロ」が共存するこの偉大な作品の前に、自分なりに勇気を持って、祈りを込めて、真っ直ぐに向き合いたいと思います。

音楽家としてピアニストとして、原点に立ちかえる事を教えてくれるようなバッハの、偉大な作品を演奏出来る感謝を込めて皆様にお届けする事が出来れば、そして喜びを分かち合う事が出来れば、これ以上嬉しい事はありません。

若林 颯

若林 颯(ピアノ) Akira Wakabayashi (Piano)

常人離れた技巧、オーケストラに匹敵する表現力 世界に飛翔する、日本を代表する ヴィルトゥオーゾ・ピアニスト

日本を代表するヴィルトゥオーゾ・ピアニスト。20歳で第37回ブゾーニ国際ピアノ・コンクール第2位、22歳でエリーザベト王妃国際コンクール第2位の快挙を果たし、一躍脚光を浴びた。東京藝術大学、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院、ベルリン芸術大学で研鑽を積む。第3回出光音楽賞、第10回モービル音楽奨励賞、第6回ホテルオークラ賞受賞。2002年にニューヨーク・カーネギーホール(ワイル・リサイタル・ホール)で鮮烈なリサイタル・デビューを果たした。N響をはじめとする国内の主要なオーケストラのほか、ベルリン響、サンクトペテルブルク響、ロシア・ナショナル管などの海外の名門オーケストラ、ロジェストヴェンスキー、アルブレヒト、ハーディングといった名指揮者、ブラッハー、イッサーリス、ルルー、パボラクなど内外の名手達と数多く共演。レコーディングでは多数のソロ・アルバムをリリース、全てレコード芸術・特選盤となり、極めて高い評価を受け続けている。また、2014年以降リリースされた鈴木理恵子とのデュオによるCDも常に高い評価を受けている。リサイタルでは2014年と2016年にサントリーホール、2020年11月には東京芸術劇場コンサートホールでソロ・リサイタルを行い高く評され聴衆の支持を受けた。また、自身では3回目となる「ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ全曲シリーズ」を2017年に完結し、2018年より2022年まで「ショパン:ピアノ作品全曲シリーズ」(全15回)を行った。2023年から東京芸術劇場で新たなリサイタル・シリーズを行っている。



私と、響き合う。

Yamaha New CFX 誕生。

CFX

Yamaha Concert Grand Piano

YAMAHA
Make Waves

旬のピアニスト情報が満載

ピアニストラウンジ

検索

Pianist Lounge. <https://jp.yamaha.com/sp/pianist-lounge/>

ヤマハ株式会社